

令和元年度 ワークセンター夢の樹 就労継続支援B型 事業実績報告書

1 総括

平成29年度以降、PDCAサイクルによる支援の充実を重点課題として取り組んできた。支援計画と実践及び記録の関連付けができていなかったことへの反省に基づいた取り組みであったが、組織全体でその必要性やノウハウが共有できず、結果として今年度の前半までに改善されていないという結果になった。ケース記録は形骸的なものが多く、施設長の関与や指導もなされていないことについて、法人からの指摘があり、下半期に抜本的な改善に向けて再度取り組んだところである。また、職員の相次いだ離職により年間を通して職員体制が不安定な状態となったことも利用者支援の充実が十分に図られなかったことの一因と考えている。このことは作業活動にも影響し、作業収入や利用者の平均工賃は前年度と比較して減少する結果となった。

経営面では、給付費収入増加のため新規利用者の確保に取り組み、6名の受け入れを行ったが、退所者が3名あり、結果として3名の増加となった。利用実績の増加と新たに重度障害者支援加算を取得したことによる給付費収入の伸びに加え、前述のように職員の離職により人件費が大幅に抑制されたことで収支差額は約2,500万円の黒字となった(収支差額については必要な額を除き、施設整備の為、本部へ繰り入れた)。

利用者支援と作業活動の充実の為に、組織全体の意識改革と職員の定着率向上に向けて取り組んでいく必要がある。

2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-5
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 50人
- 6) 利用現員 72人(令和2年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員
管理者 1名
サービス管理責任者 2名(常勤換算1.5)
職業指導員 6名(常勤換算5.4)
生活支援員 6名(常勤換算4.5)
目標工賃達成指導員 1名(常勤換算1.0)

職員グループ別内訳

- ・あかしあグループ
職業指導員 2名(常勤換算1.4)
生活支援員 3名(常勤換算2.2)
目標工賃達成指導員 1名(常勤換算1.0)
- ・みどりグループ
職業指導員 4名(常勤換算4.0)
生活指導員 3名(常勤換算2.3)

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援。
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
安心と希望の持てる生活。

- 4 基本方針 生き生きと働ける職場
日中活動の保障
豊かな生活の支援
個別支援計画に基づいた計画的な支援

安心できる将来への支援

5 実施事業

《あかしあグループ》

1) 就労支援事業

- (1) 傘の値付け
- (2) ダイレクトメール封入、封緘
- (3) 古着の値付け
- (4) 小平市報の折り
- (5) 公園清掃
- (6) 神社清掃
- (7) 入所施設清掃
- (8) 事務封筒製作
- (9) 緑化推進事業

2) 生活支援事業

- (1) 夕方生活支援事業（週3日実施）

3) 行事

(1) 年間計画

- | | |
|-----|------------------|
| 4月 | 春のバスハイク（東京都浅草方面） |
| 5月 | 小平市障がい者運動会 |
| 8月 | 夏のバスハイク（上野動物園） |
| 10月 | 秋の一泊旅行（千葉県勝浦方面） |
| 12月 | お疲れ様会 |
| 1月 | 初詣 |

(2) その他

- 喫茶（月2回）

4) 日 課

開所・送迎	8:30～9:40
朝会	9:40～9:50
作業	9:50～10:50
休憩	10:50～11:00
作業	11:00～12:00
昼食	12:00～13:00
作業	13:00～14:00
休憩	14:00～14:10
作業	14:10～15:10
片付け	15:10～15:15
終礼	15:15～15:20
送迎・清掃	15:20～16:20
作業点検、記録等	16:20～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

《みどりグループ》

1) 就労支援事業

- (1) ポスティング作業
- (2) 古着の値付け
- (3) 作業マンション清掃

- (4) 事務封筒製作
- (5) 緑化推進事業
- (6) 空き缶つぶし
- (7) ダイレクトメール封入・封緘
- (8) 公園清掃
- (9) 資源回収

2) 生活支援事業

- (1) 生活支援プログラム (週3日実施)
- (2) 夕方生活支援事業 (週3日実施)

3) 行事

(1) 年間行事

- 4月 永年勤続表彰式
- 5月 小平市障がい者運動会
- 6月 ボウリング
- 7月 みんなの音楽会
- 8月 川遊び
- 9月 スポーツ (東村山中央公園)
- 10月 秋の一泊旅行 (山梨県笛吹市方面)
- 11月 カラオケ
- 12月 ビンゴゲーム大会
- 1月 成人を祝う会
- 2月 東京江戸たてもの園見学
- 3月 DVD鑑賞

(2) その他

- 音楽教室 (月2回)

4) 日 課

開所・送迎	8:30~9:00
朝礼	9:00~9:20
準備	9:20~9:40
作業	9:40~10:40
休憩	10:40~10:50
作業	10:50~11:50
休憩	11:50~13:00
昼礼	13:00~13:10
作業	13:10~14:10
休憩	14:10~14:20
作業	14:20~15:10
作業片付け	15:10~15:20
終礼・お茶	15:20~15:40
送迎・清掃	15:40~16:30
作業点検・記録等	16:30~17:00
職員打ち合わせ	17:00~17:30

6 重点課題・目標

1) 活動

《各グループ共通》

- (1) 一人ひとりの利用者のニーズに沿った支援の実施
(支援のサイクル)

- ① 支援計画の共有とそれに基づく支援実施
- ② 支援経過の記録と情報共有
- ③ 意見交換等による支援経過の検証
- ④ 必要に応じた計画の見直し

(必要なニーズまた想定されるニーズ)

- ① 健康に関する問題
- ② 精神的な安定に関する問題
- ③ 作業に関する問題
- ④ 身体的な機能に関する問題等

《具体策》

ケース記録記入時に全支援目標についての記載を徹底することで、支援計画共有の徹底を図る。また、施設長及びグループリーダーの関与を増やし、記載内容やミーティングでの共有についてチェックを徹底する。

【成果と課題】

上半期の振り返りにおいて、ケース記録の記載は非常に雑で、支援の内容や結果の検証は極めて不十分であった。職員の交替もあるが、施設長の関与、指導が行われておらず、昨年度まで継続的に改善に取り組んできた支援のPDCAサイクルが全く積み重ねられていないどころか、内容は後退していた。支援計画そのものの内容についても、断片的、分かりにくい、整合性が無いなど多くの課題があった。下半期に個別支援計画を見直し、再度丁寧に作成することからはじめ、計画に基づいた支援やケース記録の内容については少しずつ改善が図られている。

(2) 作業活動の充実

- ① 自助具の開発及び改良、道具の工夫等による作業支援

一人ひとりの機能を補完し、作業の効率や正確性の向上を行うための道具の活用や自助具の開発に取り組む。また、このために月1回以上担当者からの提案を行う。

- ② 安定した作業提供

利用者の作業が途切れないよう受注先と密に連絡を取り、計画的に作業を受注する。

- ③ 新規作業の開拓

担当者が月に1か所以上、電話または訪問により営業活動を行い、利用者にあった新規作業の開拓を行う。

- ④ 作業収益の増加

ア～ウの取組により作業収益の増加を行う。

就労支援事業収入目標額 12,300,000円

(30年度実績 12,200,000円 2月末時点見込額)

【成果と課題】

- ① 月1回の提案は実施できなかったが、年間で4個の自助具の試行を行なった。その内DMのシール貼りための自助具が実用に至り、作業の正確性の向上に効果があった。

- ② 発注業者に、1つの作業が終了する前に次の作業を要請することにより作業を途切れることなく受注することができた。

- ③ 月に1回の営業活動は実施できなかったが、年間で2種類の新規作業を実施し、その内の一つである古着の値付け作業が定期的な受注に至った。大きな収入の増加にはつながっていないが、作業種の増加という点では成果があった。残りの一つは現在試験的に実施している。

- ④ 就労支援事業収入が10,481,682円となり、昨年度の13,141,144円と比べ2,659,462円減額となった。

<減額理由>

(ア) 資源回収作業の古紙単価が減額。

- (イ) 緑化推進事業の作業減少（みくま及びバウムに作業を譲渡）。
- (ウ) 小平市報の折込み作業受注件数減少（一部業者委託に変更となり受注量が1か月あたり14,000件から2,000件に減少）。

(3) 生活支援の充実

健康問題や将来の生活、精神面の安定など作業活動以外の生活全般に係る課題について、関係機関と連携の上、支援を行う。

【成果と課題】

- ・通所が安定していないみどりグループ利用者5名に対して、本人や家族、関係機関を交えて対策等について協議を行った。1名については、小平第二みどり作業所との作業交流を行うことで改善され、1名については、話を聞くことが気持ちの安定化につながり、通所状況の改善につながった。他の3名については、本人が通所の必要性をあまり感じてない印象で状況は変わっていない。
- ・必要に応じてケア会議を関係機関に呼びかける、又相談支援事業所等が招集するケア会議に参加するなどにより、利用者の支援ネットワークの一員として課題の共有や解決に向けた役割を担った。
- ・週1回看護師による健康相談を実施した。利用者からは「安心した」などの感想が聞かれた。

《みどりグループ》

(4) 就労のステップアップを目指す利用者のスキルアップ

みくま（就労継続支援A型）やバウム（就労継続支援B型）など、より就労支援に力を入れた事業所へのステップアップを望んでいる利用者に対して、コミュニケーション、作業態度、能力等の向上に向けた支援を行う。

【成果と課題】

年度当初にステップアップの希望があった2名の利用者に対して、就業に必要な作業能力や社会性の向上のための働きかけを行ったが、ステップアップに対する意欲そのものの向上がみられず、成果は出ていない。

2) 人材育成

(1) グループリーダー

- ① 各職員の行動に関心を持ち、事業方針に沿った指導や意見を行う。
- ② 事業計画および支援計画の進捗状況を把握し進捗状況を随時確認し全体で共有する。
- ③ 活動全体を視野に入れて業務を行う。
- ④ 現場職員と施設長の橋渡しの役割を担うと共に、グループ間の情報共有を密にとる。
- ⑤ ケース記録、ミーティング記録の内容や記載漏れについて確認を徹底する。
- ⑥ 利用者家族と連絡調整を通じて、信頼関係を構築する。

【成果と課題】

《あかしあグループ》

指導力という点ではまだ不十分だが、職員とのコミュニケーションはよく取れており、みどりグループのリーダーとも連携が取れていた。施設長からの指示等の全体への周知は良くできていたが、現場の状況の施設長への報告が不足する場面もあった。事業全体の把握はできており、家族との信頼関係も築けている。

《みどりグループ》

6月にグループリーダーの離職があり、急に配属ということになったが、利用者、職員と良い関係を作っており、現場リーダーとしての役割を果たしている。他の職員への指示や現場と施設長の橋渡しという点ではスキルが不足していることもあるが、経験とともに向上がみられる。

(2) 全職員

- ① 月1回の事業所会議にて事業計画を振り返り、業務にあたる。
- ② 利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルの向上。
- ③ 伝達や報告の手法、ケース記録・ミーティング記録の作成など情報共有に必要なスキルの向上。
- ④ 活動内容や支援方法に対して自己の意見を表明し、積極的に事業に関わる姿勢を持つ。

【成果と課題】

事業計画の周知や職員の育成については組織全体での取り組みが不足していたうえ、職員の交代もあり、全般的なスキルの向上は行えなかった。事業目的の共有ができなかったことが反省点である。しかし、利用者とは全般的に良好な関係が築けているほか、厳しい職員体制の中、納期前の作業完了などの貢献度が大きかった。

3) 経営管理

- (1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行するとともに、試算結果から課題が見えた場合は迅速に対応する。

【成果と課題】

施設会計は安定した黒字収支で推移し、月次試算により経営状態の把握も出来ていたが、就労支援事業会計の収支状況悪化に対する対策が迅速に行えず、改善策を講じる時期が遅れてしまったことが反省点である。

3月はコロナウィルス流行の影響があり計画より10万円程度の減収となった。

- (2) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

【成果と課題】

- ① エアコンやパソコンの電源切り忘れ等、節電が不十分であった。
- ② 整理整頓により在庫管理を正確に行い、無駄な支出を抑えることができた。
- ③ 試し刷りや必要枚数の計算により、印刷ミスの減少が図られた。

7 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日
- 2) 開所日数
 - (1) 週開所日数 5日間
 - (2) 開所時間 午前8時30分～午後4時
 - (3) 年間延開所日数 243日間
 - (4) 平均活動時間 7時間

8 利用状況

- 1) 利用者延人員 13,583人(前年度 13,557人)
- 2) 1日平均利用人員 55.7人(前年度 55.3人)
- 3) 体験実習実人員 11人(前年度 10人)
- 4) 体験実習延人員 38人(前年度 61人)

9 利用者状況(令和2年3月31日現在)

- 1) 年齢
 - 20歳未満 0名

20歳以上30歳未満	14名		
30歳以上40歳未満	13名		
40歳以上50歳未満	15名		
50歳以上60歳未満	13名		
60歳以上70歳未満	11名		
70歳以上	6名	平均年齢	45.8歳

2) 障害の状況

愛の手帳2度	10名	(内身障手帳所持 1名)
愛の手帳3度	15名	(内身障手帳所持 2名)
愛の手帳4度	17名	(内身障手帳所持 3名、精神保健手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	10名	(内愛の手帳所持 2名)
身体障害者手帳2級	9名	(内愛の手帳所持 1名)
身体障害者手帳3級	5名	(内愛の手帳所持 1名、精神保健手帳所持 1名)
身体障害者手帳4級	2名	
身体障害者手帳5級	3名	(内愛の手帳所持 2名)
身体障害者手帳6級	2名	
精神保健手帳2級	5名	(内愛の手帳所持 1名、身障手帳所持 1名)
精神保健手帳3級	2名	
手帳なし	1名	

3) 通所手段

送迎車利用	19名	(内4名交通機関、1名家族送迎と併用)
交通機関利用	31名	(内4名送迎車両と併用)
徒歩等	20名	
家族送迎	1名	(送迎車両と併用)

4) 居住状況

管内居住	61名	管外居住	11名
------	-----	------	-----

5) 性別

男性	58名	女性	14名
----	-----	----	-----

10 作業収益及び工賃等

1) 作業総収入	10,481,682円	(前年度 13,141,144円)
2) 工賃総額	10,195,180円	(前年度 12,137,330円)
3) 平均工賃	月額 12,464円	(前年度 14,805円)
	日給	751円 (前年度 895円)
	時給	207円 (前年度 245円)

11 生活支援プログラム実施状況

1) 実施日数

(1) PG実施日数	108日
(2) 週平均実施日数	2.3日

2) 利用者(令和2年3月31日現在)

(1) 利用者数	1人
(2) 利用者延人数	108人

3) 支援者(令和2年3月31日現在)

(1) 職員	4人
(2) アルバイト	7人
(3) 職員延人数	19人
(4) アルバイト延人数	89人

- 4) 内容
- (1) ウォーキング 60回
 - (2) プール 48回

1.2 夕方生活支援事業実施状況

- 1) 参加者 実25名 (内親の会利用者 4名)
- 2) 延べ 421名 (内親の会利用者 49名)
- 3) 延実施回数: 135回

4) 月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数
4月	12回	33人 (内親の会利用者 5名)
5月	12回	34人 (内親の会利用者 5名)
6月	11回	35人 (内親の会利用者 3名)
7月	11回	33人 (内親の会利用者 2名)
8月	12回	35人 (内親の会利用者 2名)
9月	11回	38人 (内親の会利用者 6名)
10月	11回	39人 (内親の会利用者 5名)
11月	11回	40人 (内親の会利用者 7名)
12月	13回	40人 (内親の会利用者 3名)
1月	12回	35人 (内親の会利用者 4名)
2月	13回	34人 (内親の会利用者 3名)
3月	11回	34人 (内親の会利用者 4名)

5) 内容別実施及び参加状況

内容	実施回数	延参加人数
さんぽ	8回	10人
ボウリング	24回	139人
プール	21回	14人
パソコン	12回	11人
カラオケ	22回	139人
お風呂	15回	34人
料理	12回	28人
テーブルゲーム	8回	9人
ドライブ	19回	20人
すいか割り	1回	3人
初詣	1回	2人
スポーツ	4回	7人

1.3 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.4 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウィルス感染拡大防止のため中止とした。